

○ 計画見直しの視点
・ 現行計画の策定後（平成29年度以降）に審議会での意見等をふまえ県が施策・事業に反映した内容を記載しています。（◎は新規の取組み、○は既存の取組みを拡充、■は既存の取組み継続）

視点 1	施策	主な取組み	審議会における主な意見	見直しにおける 対応の方向性
誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツ活動の推進	①楽しみながら行うスポーツへのきっかけづくり（主に乳児期）	ア 家庭での遊び・運動の推進		
		・子ども向け3033運動の推進		
		・家族で楽しめるスポーツイベントの開催		
		イ 地域での遊び・運動の推進		
		・子どもの外遊び、スポーツの推進		
		・総合型地域スポーツクラブ等におけるスポーツ活動の機会提供		
			・親子で遊ぶ必要性を伝えることが重要	○
		・幼児期からの運動習慣づくりの推進	・子どものスポーツ実施率向上は、親へのアプローチが必要	○
			・親と一緒に動くチャンスを与えることで運動を誘発できる	○
	②スポーツに親しむ意欲や態度の育成（主に児童・青年期）	ア 体育・健康教育の充実		
		・子どもの体力向上・運動習慣確立・生活習慣改善の推進		
		・教員の指導力向上に向けた研修の充実	・スポーツが好きになる根幹は小・中・高の体育の授業が重要	■
		・体力・運動能力や運動習慣等調査の活用		
		イ 部活動の活性化		
		・県内中学校・高等学校における部活動活性化		
		・生徒のニーズを捉えた新しいタイプの部活動の推進		
		・（保健体育課 調整中）	・運動部活動の改革には各市町村と県の教育委員会との連携が重要	◎
		ウ 地域におけるスポーツ活動の推進		
		・地域におけるスポーツ活動の推奨	・神奈川県で開催されるねんりんピックに生徒を参加させ、スポーツを「観る」「支える」ことの大切さを伝えたい。	○
		・アスリートとの連携によるスポーツ体験教室の実施	・トップアスリートに触れる機会を作ることによってスポーツの価値（楽しさ）を伝えることができる ・スポーツ体験教室を実施する際は、スポーツに対して苦手意識がある子どもが参加しやすいよう既存の種目以外の取組みも必要	■ -
		・地域における子どもの運動習慣確立の推進		
		・総合型地域スポーツクラブ等におけるスポーツ活動の機会提供（再掲）		
	③スポーツを行う習慣の確立（主に成人期）	ア スポーツに親しむ機会の充実		
		・県民スポーツ月間の設定	・スポーツイベントでは、家族や3世代での参加も多く実施率の向上に有効	■
		・多様なスポーツ活動機会の提供	・スポーツ嫌いや無関心の方達をスポーツの実施につなげるには、「チャレンジデー」などのイベントが有効 ・未体験のスポーツやスポーツの楽しさを伝える取組みが必要	■ ■
		・「観る」「支える」スポーツ活動の推進		
		・総合型地域スポーツクラブ等におけるスポーツ活動の機会提供（再掲）		
		イ 3033（サマルサマル）運動の推進		
		・3033運動の普及・啓発		
		・3033運動の実践		
		・体力測定と医事相談による3033運動の実践支援		
	④スポーツを通じた健康・生きがいづくり（主に円熟期）	ア レクリエーションスポーツの推進		
		・レクリエーションスポーツの普及推進		
		・レクリエーション教室などへの支援		
		・第34回全国健康福祉祭（ねんりんピック）に向けた取組み		
		・総合型地域スポーツクラブ等におけるスポーツ活動の機会提供（再掲）		
		イ 体の状態や体力に応じた運動の推進		
		・高齢者向け3033運動プログラムの普及と活用促進		
		・「コグニサイズ」の推進		

視点 2	施策	主な取組み	審議会における主な意見	見直しにおける 対応の方向性
ス ポ ー ツ 活 動 を 拡 げ る 環 境 づ く り の 推 進	⑤スポーツ活動の 環境整備	ア スポーツ環境の基盤となる「人材」の育成と「場」の充実		
		・スポーツにかかわる多様な人材の育成と活躍の場の確保		
		・障がい者スポーツを支える人材の育成		
		・スポーツ推進委員との連携の強化		
		・スポーツ功労者の表彰の実施		
		・県立学校体育施設や大学・企業等のスポーツ施設開放の推進		
		・県立スポーツ施設の管理・運営方法の改善	・ビジネスパーソンにとっては夜9時以降のスポーツの場の確保が重要であり市町村も含め夜9時以降も公共施設を使えるようになるとよい ・県立武道館は、障がい者スポーツ推進の観点からバリアフリー化を検討していただきたい	- ■
		・県が管理するオープンスペースの有効活用		
		・県内スポーツ施設の整備		
		イ 体育センターの再整備		
		・スポーツ振興拠点としての整備		◎
		・事前キャンプへの対応		
		・スポーツ推進拠点としての整備	・県立スポーツセンターは、競技力向上の拠点になるような施設にすることが大切	
		ウ 地域コミュニティの中心となる総合型地域スポーツクラブの質的充実		
		・総合型地域スポーツクラブの育成・支援		■
		・総合型地域スポーツクラブの質的充実	・総合型地域スポーツクラブの登録・認証等の制度の推進については、県とスポーツ協会等との連携が重要	
		・総合型地域スポーツクラブ等におけるスポーツ活動の機会提供（再掲）		
		・地域におけるスポーツ活動の推奨（再掲）		
		エ スポーツを通じて地域を盛り上げる取組み		
		・豊かな自然環境を活かしたスポーツ体験教室の開催		
		・かながわシープロジェクトの推進		
		・スポーツツーリズムの促進		
		・スポーツ推進委員との連携の強化（再掲）		
		オ スポーツ医・科学の活用促進		
		・大学、スポーツ関係団体や県医師会と連携したスポーツ医・科学の活用促進	・スポーツセンターにおいては、国立科学スポーツセンターでの取組みなども考慮していただきたい	-
		・スポーツ医・科学を活用した女性アスリートの支援		
		・栄養面でのサポートの推進		
		・体力測定と医事相談による3033運動の実践支援（再掲）		
		・（スポーツ医科学・栄養サポートの支援）	・トップアスリートを育てるためには、スポーツ医科学等に取り組むことが重要であり、能力を見極める指導者の育成も必要（再掲） ・スポーツ医科学・栄養サポート事業について高体連や中体連の会議等を通じて部活動顧問等に広く周知していただきたい	◎
		カ クリーンでフェアなスポーツの推進		
		・安心してスポーツができる環境の整備		
		・ドーピング防止活動の支援		
・県民へのオリンピック・パラリンピックの意義の理解促進				

視点 2	施策	主な取組み	審議会における主な意見	見直しにおける 対応の方向性
ス ポ ー ツ 活 動 を 拡 げ る 環 境 づ く り の 推 進	⑥障がい者スポー ツの推進	ア 障がい者スポーツの機会拡大		
		・ 総合型地域スポーツクラブや学校施設等の活用		
		・ 障がい者スポーツ関係団体との連携・協働の推進		
		・ パラリンピアン育成・支援		
		・ 競技活動の場の提供	・ トップアスリートによる教室や体験会の実施により、障がい者スポーツの普及やアスリートの創出につながる（再掲）	■
		・ 障がい者スポーツを支える人材の育成（再掲）		
		・ （障がい者アスリートの支援）	・ オリンピックを目指す選手とパラリンピックを目指す選手とでは、資金や環境の面で平等でなく、平等にすることでパラスポーツをやりたいという人が増える	◎
		・ （スポーツセンターを活用した障がい者スポーツの推進）	・ 三間（空間としての場所、時間、仲間）をどうやってつくるのが重要。障がい者も健常者も一緒に運動を楽しむことができる環境の整備が重要	◎
		イ 障がい者スポーツの理解促進		
		・ 「かながわパラスポーツ」普及イベントの実施	・ 障がいのある方も参加できるイベントの案内方法には工夫が必要	■
		・ 障がい者スポーツの普及促進	・ 「ともに生きる社会」を目指し、障がいの有無にかかわらずだれもが一緒に取り組めるスポーツ教室などの開催が必要	■
			・ 障がい者の方がなぜスポーツをしないのか把握する必要がある	■
		・ 学校における「かながわパラスポーツ」の普及	・ トップアスリートによる教室や体験会の実施により、障がい者スポーツの普及やアスリートの創出につながる（再掲）	■
		・ （スポーツセンターを活用した障がい者スポーツの推進）（再掲）	・ 神奈川県障がい者スポーツ協会は、特別支援学校や普通校の障がい者クラスの子 ども達がアクセスできるように連携を深めていただきたい	■
	・ パラスポーツを見せることが障がい者スポーツ人口の増加につながる		◎	
	・ パラアスリートが、障がい児だけでなく健常児と一緒にになってプレイすること で、障がい者スポーツの理解促進につながる			
	⑦アスリートの育 成	ア 競技力の向上		
		・ 国民体育大会へのコーチ、トレーナー等の派遣支援		
		・ 地域スポーツとアスリートの連携推進		
		・ スポーツ優秀選手の表彰の実施		
		・ ジュニア世代を対象とした競技力向上の機会提供		
		・ 大学、スポーツ関係団体や県医師会と連携したスポーツ医・科学の活用促進（再掲）		
		・ 競技活動の場の提供（再掲）		
		・ （スポーツ医科学・栄養サポートの支援（再掲））	・ トップアスリートを育てるためには、スポーツ医科学等に取り組むことが重要で あり、能力を見極める指導者の育成も必要（再掲）	◎
			・ スポーツ医科学・栄養サポート事業について高体連や中体連の会議等を通じて部 活動顧問等に広く周知していただきたい（再掲）	
		・ （タレント発掘・育成の支援）	・ 子どもたちの可能性を広げるため神奈川育ちのアスリートの発掘・育成は、とて も重要	◎
・ 小学校～中学校～高校～大学まで選手を引き継いでいく育成システムの構築が必 要				
イ トップアスリートの育成				
・ 東京2020オリンピック競技大会に向けたトップアスリートの育成・支援	・ オリパラに向けたアスリート育成事業について、事業の継続、あるいは選手の活 動費のプラスの支援が重要	—		
・ 全国レベルで活躍するトップアスリートの育成・強化				
・ トップアスリートのキャリア形成の支援				
・ パラリンピアン育成・支援（再掲）				
・ （障がい者アスリートの支援）（再掲）	・ オリンピックを目指す選手とパラリンピックを目指す選手とでは、資金や環境の 面で平等でなく、平等にすることでパラスポーツをやりたいという人が増える（再 掲）	◎		

視点3	施策	主な取組み	審議会における主な意見	見直しにおける対応の方向性
オリンピック・パラリンピックなどを盛り上げていく取組み	⑧大会成功に向けた開催準備	ア ラグビーワールドカップ2019 TM に向けた取組み		
		・大会運営に関する取組み		
		・大会に向けた機運の醸成		
		イ 東京2020大会・セーリング競技などに向けた取組み		
		・江の島（湘南港）開催に向けた整備		
		・大会に向けた機運の醸成		
		・神奈川県の手選手を中心とした日本人選手への支援		
		・東京2020オリンピック競技大会における本県開催のその他の競技に向けた取組み		
	⑨大会を契機としたスポーツの普及推進	ア 大会を身近に感じられる取組み		
		・事前キャンプの誘致		
		・大会ボランティアの参加促進		
		・学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進（再掲）		
		・学校における「かながわパラスポーツ」の普及（再掲）		
		・県民へのオリンピック・パラリンピックの意義の理解促進（再掲）		
		・「かながわパラスポーツ」普及イベントの実施（再掲）		
		・大会に向けた機運の醸成（再掲）		
		イ レガシーの創出		
		・公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携したスポーツ推進		
		・体育センターの再整備（再掲）		
		・パラリンピアン育成・支援（再掲）		
		・東京2020オリンピック競技大会に向けたトップアスリートの育成・支援（再掲）		
		・江の島（湘南港）開催に向けた整備（再掲）		
		・生涯にわたるスポーツの推進		

（1）新型コロナウイルス感染症関連

（2）その他

審議会における主な意見	見直しにおける対応の方向性
・ コロナ禍において新たなスポーツ的な取組みの展開を検討していただきたい。	
・ 見直しに当たっては、コロナがスポーツ実施率にどのように影響したのかを詳しく分析していただきたい。	
・ 見直しに当たっては、感染対策についての記載について検討	
・ コロナに対して個人個人がどのように注意したらよいか、具合が悪くなった時にどうしたらいいかの対応について記載を検討	
・ コロナ禍のスポーツ実施時のマスク着用の有無やワクチン接種の有無などに対しての感染偏見対策についての記載を検討	
・ コロナによってスポーツにもたらした弊害やコロナ禍においてもできる運動などをスポーツ推進審議会から発信することを検討。	
・ オリンピック・パラリンピックを契機としてスポーツ選手の心のケアについて、どの人も心の不調をすぐに相談し、口に出せる環境づくりについて検討	
・ 「未病」や「ともに生きる社会かながわ」などのスポーツを通じた取組みについて積極的に取り組むことが大切。	
・ 計画の見直しに当たっては、どこまでの何をどのような営みをスポーツと呼べるのかというのかを議論していきたい。	
・ スポーツを「する・観る・支える」という視点でとらえると、観るも重要	
・ 県立スポーツセンターにおいては競技の選手情報収集やメジャーでない種目の支援などが神奈川県における選手の発掘につながる	
・ 県立スポーツセンターにおいては障がい者のスポーツ機会を増やすためには、障がいの種類等によって使用可能な施設の情報が必要	